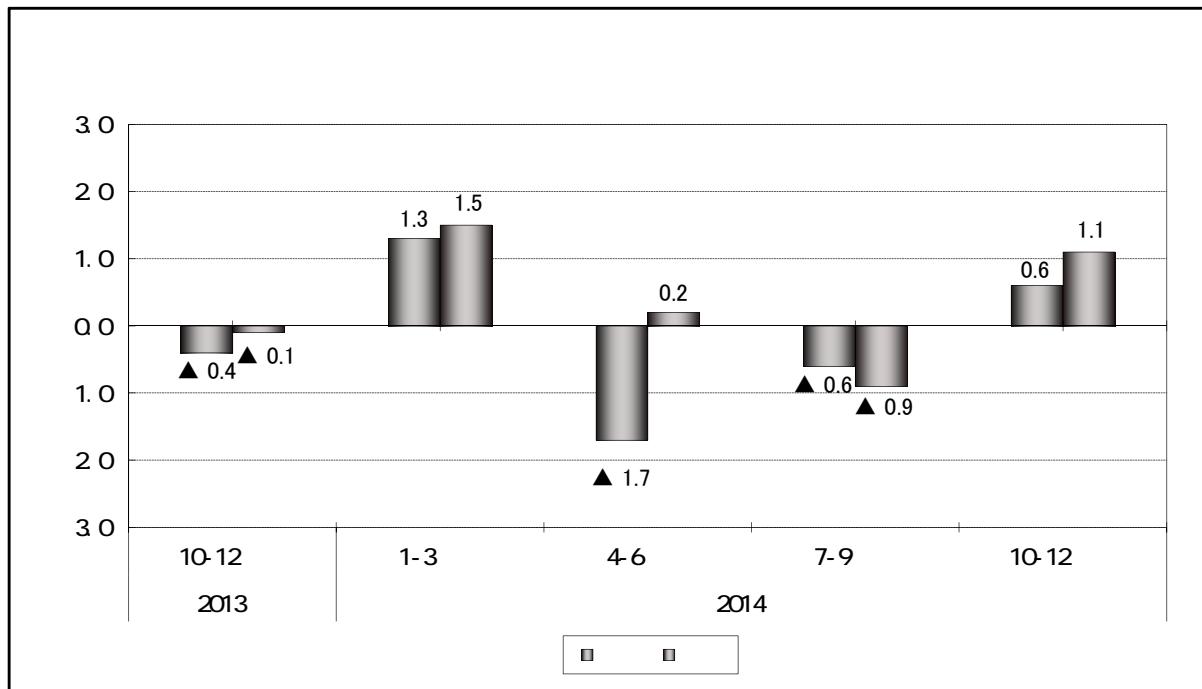


( )

2014( 26) 10 12

1

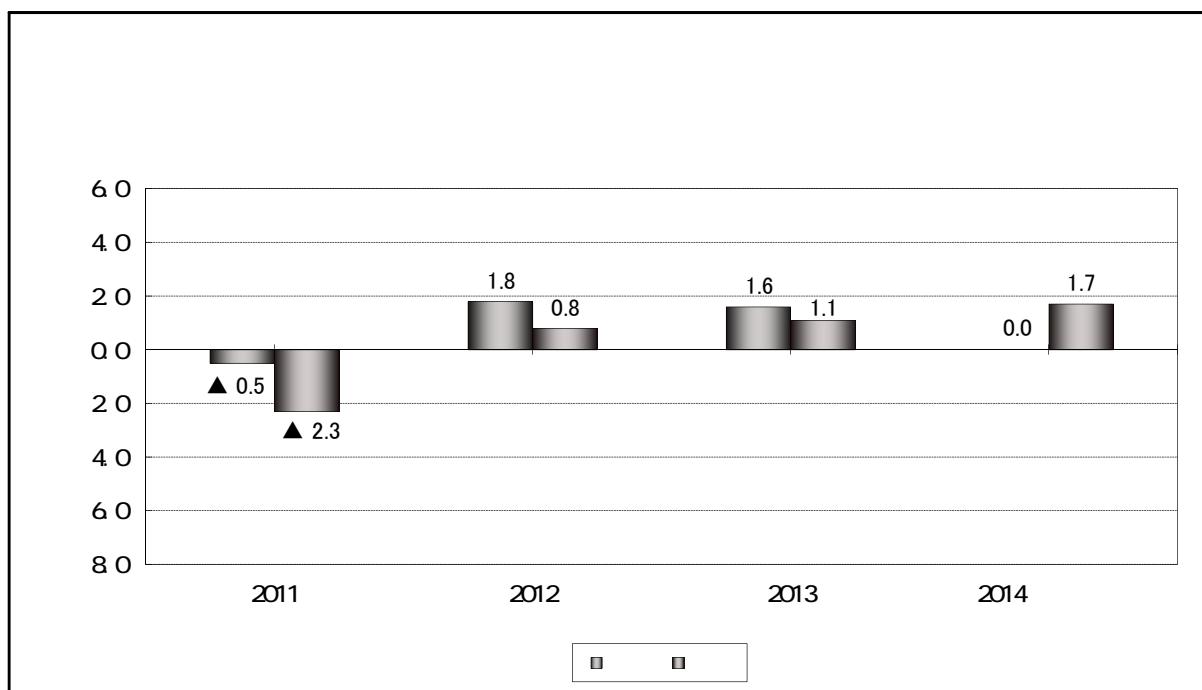
2014 10 12 ( 22 ) 2005 1.1 ( 4.5 ) Q 6



2014  
2014

Q O

1.7



	平成25年度 (実績)	平成26年度 (実績見込み)	平成27年度 (見通し)	対前年度比増減率					
				平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	兆円 (名目)	兆円程度 (名目)	兆円程度 (名目)	% (名目)	% (実質)	%程度 (名目)	%程度 (実質)	%程度 (名目)	%程度 (実質)
国内総生産	483.1	491.4	504.9	1.8	2.1	1.7	▲ 0.5	2.7	1.5
民間最終消費支出	296.5	295.3	303.5	2.7	2.5	▲ 0.4	▲ 2.7	2.8	2.0
民間住宅	15.9	14.6	14.9	12.5	9.3	▲ 7.8	▲ 10.7	1.9	1.5
民間企業設備	68.2	69.6	73.3	4.9	4.0	2.2	1.2	5.3	5.3
民間在庫品増加 (注)内は寄与度	▲ 3.9	▲ 1.5	▲ 1.5	(▲ 0.5)	(▲ 0.5)	(0.5)	(0.4)	(▲ 0.0)	(▲ 0.0)
財貨・サービスの輸出	80.0	87.2	93.8	13.6	4.7	9.0	6.0	7.5	5.2
(控除)財貨・サービスの輸入	95.9	100.8	103.6	18.7	6.7	5.1	2.5	2.8	3.9
内需寄与度				3.0	2.6	1.2	▲ 1.0	2.0	1.4
民需寄与度				2.2	1.8	0.3	▲ 1.3	2.5	2.0
公需寄与度				0.8	0.8	0.9	0.3	▲ 0.5	▲ 0.6
外需寄与度				▲ 1.2	▲ 0.5	0.5	0.5	0.8	0.1
国民総所得	501.1	511.7	526.9	2.3	2.0	2.1	▲ 0.2	3.0	2.1
労働・雇用	万人	万人程度	万人程度	%		%程度		%程度	
労働力人口	6,578	6,589	6,596		0.3		0.2		0.1
就業者数	6,322	6,354	6,364		0.7		0.5		0.2
雇用者数	5,564	5,601	5,617		1.0		0.7		0.3
完全失業率	%	%程度	%程度						
	3.9	3.6	3.5						
生産	%	%程度	%程度						
鉱工業生産指数・増減率	3.2	▲ 0.5	2.7						
物価	%	%程度	%程度						
国内企業物価指数・変化率	1.9	3.1	▲ 1.0						
消費者物価指数・変化率	0.9	3.2	1.4						
GDPデフレーター・変化率	▲ 0.3	2.2	1.2						
国際収支	兆円	兆円程度	兆円程度	%		%程度		%程度	
貿易・サービス収支	▲ 14.4	▲ 11.7	▲ 8.2						
貿易収支	▲ 11.0	▲ 8.3	▲ 4.8						
輸出	69.8	74.5	80.9	12.2		6.8		8.6	
輸入	80.8	82.8	85.7	19.7		2.5		3.5	
経常収支	0.8	5.1	10.2						
経常収支対GDP比	%	%程度	%程度						
	0.2	1.0	2.0						

(注1) 消費者物価指数は総合である。

(注2) 消費税率引上げの影響を機械的に除いて試算すると、平成26年度の消費者物価指数・変化率は1.2%程度、GDPデフレーター変化率は0.8%程度と見込まれる。

本経済見通しに当たっては、「2. 平成27年度の経済財政運営の基本的態度」に記された経済財政運営を前提としている。

世界GDP(日本を除く)、円相場、原油輸入価格については、以下の前提を置いている。なお、これらは、作業のための想定であって、政府としての予測あるいは見通しを示すものではない。

	平成25年度 (実績)	平成26年度	平成27年度
世界GDP(日本を除く)の実質成長率(%)	3.0	3.1	3.6
円相場(円／ドル)	100.2	109.9	118.7
原油輸入価格(ドル／バレル)	109.6	94.5	69.3

(備考)

1. 世界GDP(日本を除く)の実質成長率は、国際機関等の経済見通しを基に算出。
2. 円相場は、平成26年11月25日～平成26年12月19日の期間の平均値(118.7円／ドル)で同年12月20日以後一定と想定。
3. 原油輸入価格は、平成26年11月25日～平成26年12月19日の期間のスポット価格の平均値に運賃、保険料を付加した値(69.3ドル／バレル)で同年12月20日以後一定と想定。

我が国経済は民間活動がその主体をなすものであること、また、特に国際環境の変化には予見しがたい要素が多いことに鑑み、上記の諸計数はある程度幅を持って考えられるべきものである。

	2015	2016
	0.6	0.8
	3.6	3.3
	1.2	1.4
	6.8	6.3
	3.5	3.7

	2014	2015	2016
	0.4	0.8	1.0
	2.2	3.1	3.0
	0.8	1.1	1.7
	1.8	2.3	2.6

	2014	2015
	6.2	6.4
	7.5	7.4
	2.5	3.2
	3.7	3.8
	3.4	3.3
	5.5	6.3
	5.3	5.8
	5.7	5.3
	6.2	6.4
	3.5	3.9
	1.6	4.5
	5.5	5.7

27 1 21

	10		10		10							
	-0.6	-0.4	+0.2	+0.7	+1.8	+2.3	+1.2	+1.7	+1.5	+1.7	+1.0	+1.4
	< -0.5 >		< +0.5 >		< +2.1 >		< +1.5 >		< +1.6 >		< +1.2 >	
	-0.7	-0.3	+0.1	+1.0	+1.3	+2.3	+0.8	+1.8	+0.7	+2.0	+0.6	+1.6